

土木学会コンクリート委員会 3種委員会
鉄筋コンクリート設計システム研究小委員会 (340 委員会)
第 10 回全体委員会 議事録

日 時：平成 22 年 10 月 27 日 (水) 16:00～17:15

場 所：土木学会 A 会議室

出席者：渡辺委員長，斉藤幹事長，~~青戸委員~~，~~石澤委員~~，市波委員，井上委員，~~入江委員~~，~~尹委員~~，~~内田委員~~，小川委員，~~奥井委員~~，柏原委員，加藤委員，~~金子委員~~，~~土原子委員~~，川端委員，木野委員，~~小林委員~~，斉藤(修)委員，斉藤(隆)委員，~~笹谷委員~~，塩畑委員，島委員，~~下村委員~~，滝本委員，谷村委員，土屋委員，~~内藤委員~~，~~長井委員~~，中島委員，中野委員，~~西崎委員~~，服部委員，濱田委員，~~平野委員~~，~~吉本委員~~，~~牧委員~~，~~松橋委員~~，~~三喜委員~~，~~三本委員~~，~~横田委員~~，米田委員，渡辺(健)委員，渡辺(伸)委員

(敬称略，計 22 名 取消線は欠席者)

資 料：

- 資料 10-0 第 10 回全体委員会議事次第
- 資料 10-1 第 9 回全体委員会議事録 (案)
- 資料 10-2 設計システム WG 議事メモ
- 資料 10-3 構造細目 WG 議事メモ

議 事：

1. 前回議事録の確認
 - ・ 資料 10-1 に基づき，前回委員会の議事録(案)の確認を行った。
2. 新委員の挨拶
 - ・ 市波委員の後任の加藤委員が紹介され，挨拶があった。
3. 欧州構造物視察の報告
 - ・ 斉藤幹事長より，2010 年 9 月 16 日～25 日に行われた欧州構造物調査について報告があり，「よい設計」を考える上で参考となる種々の橋梁に関する調査結果の紹介があった。

4. WGの活動状況について

(1) 設計システムWG

- ・ 塩畑主査より、設計システムWGの活動状況について報告が行われた。
- ・ WG活動のアウトラインおよび作業分担を決定した。
- ・ 本来あるべき基準の姿を追求し、各事業者が採用できるようにしたい。
 - 各発注者（事業者）の内部基準等も議論に含めるのか？土木学会の標準示方書のみなのか？
 - 特定の事業者・企業等を特別に意識することは無い。標準示方書を想定している。

(2) 構造細目WG

- ・ 谷村主査より、構造細目WGの活動状況について報告が行われた。
- ・ 構造細目WGの最終目標は、示方書条文の提案とする。
- ・ 示方書の「条文」と「解説」を書き出して説明・分析を行う方法で進める。

(3) 全体委員会での議論

- ・ 全体のアウトラインは、設計システムWGと構造細目WGで連携を取りながら進めていく
 - 「①設計システム②構造細目③海外報告・温故知新」の順番とする
- ・ 構造細目WGにおいて、設計時の施工性への配慮（配筋設計）についてどの程度考慮すべきかが議論された。
 - 配筋設計の良い設計とは、「性能の追求」と「組み易さ」のどちらなのか？
 - 施工者に解釈の余地があった方がよいのか？無い方がよいのか？
 - 照査方法と構造細目は2つがペアとなるものであり、レベル1～3のどのレベルを対象にするかで示方書の記述方法も変わってくる。
 - 設計～施工の情報の受け渡しについても検討するべきである。レベル1～3によって、図面の描き方も変わってくる。
 - 現在の示方書は、レベル1～3の「照査方法-構造細目」が混在している。
- ・ レベル2は、レベル1とレベル3の折中案なのか？
 - レベル1は基準に一切縛られない設計を想定している。レベル2とレベル3の2つへ分けることを想定している。
- ・ レベル3は、現在の示方書よりもさらに仕様規定が厳しくなるはずである。
 - 完全なレベル3を決めることは逆に難しい。レベル3の構造細目を下手に追及すると、余計に悪化する可能性が高い。
 - レベル3の設計も枠組みとしては存在するべきである。技術の無い人が設計しても、悪くならない（最低限の品質を確保できる）設計法も枠組みとしては存在を認めるべきである。
- ・ 本委員会はレベル2の追求を目的とし、レベル3の追求は行わない。

5. 今後のスケジュールについて

- 今後のスケジュールについて、以下の通り確認された。
 - 12月 最終委員会
 - 3月末 報告書原稿締め切り
 - 5月 講習会
- 詳細なスケジュールについては、斉藤幹事長よりメールで案内されることとなった。
- 報告書の目次案および報告書のテンプレートについても、斉藤幹事長よりメールで案内されることとなった。

6. その他

- 次回 WG&委員会
 - 日程：12月15日(水) 13時～17時(13:00～15:00 WG, 15:00～17:00 全体委員会)
 - 場所：四谷周辺
 - 備考：委員会終了後に忘年会を行う

以上
(文責：米田大樹)